

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	もみの木グループホーム		
所在地	山口県柳井市中央1丁目8番1号		
電話番号	0820-24-0007	事業所番号	3591200013
法人名	大平有限会社		

訪問調査日	平成 21 年 12 月 17 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	20 人	常勤 15 人 非常勤 5 人 (常勤換算 16 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2	~ 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 33,000 ~ 37,000 円	敷金	無	円
保証金	有 300,000 円	償却の有無	有	
食費	1日 1,290円			
その他の費用	月額 25,000 円			
	内訳 管理費25,000円(光熱水費を含む)			

(4) 利用者の概要 (12月17日現在)

利用者数	18 名	男性 3 名	女性 15 名	
	要介護 1	4	要介護 4	1
	要介護 2	6	要介護 5	
	要介護 3	7	要支援 2	
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 92 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 神出内科医院、松井クリニック 歯科
-------------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

事業所は市の中心部に設置されており、自治会に加入し自治会行事にも参加されています。ホームが実施する避難訓練や祭りに地域の人も参加して利用者と交流され、地域向け季刊紙の回覧等、地域と深く関わりあいながら事業を展開しておられます。地域からは災害や緊急時の支援も約束され、グループ内のタクシー会社の24時間体制の見守りや支援など、緊急時への対応も確保されています。利用者は地の利を活かし、喫茶店や外食、観光名所の散策、園芸療法や金魚ちょうちんづくりへの参加等、豊かに暮らしておられます。

(特徴的な取組等)

医療連携のため、ファックスにより介護計画支援連絡票をかりつけ医との間で交換され、医学的見地に立った情報交換や医師の指示を共有し、安心して介護が提供できるしくみが構築されています。2泊3日(最大14日)の体験入居に取り組み、ホームを理解し、安心してサービスが利用出来るよう配慮されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果については運営者、管理者、職員共に真摯に受け止め、自己評価では足りないところを知り、外部評価では意見を参考にサービスの充実に向けて取り組んでおられます。今回新たに第三者委員の選任をされました。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者を中心に、ユニットリーダーや計画作成担当、介護職員で協議を重ね評価をしております。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回、市担当課長、地域代表、家族代表(2名)、グループホーム職員等6名で開催し、評価結果やサービス、行事の取り組み状況、災害時支援体制等について話し合い、寄せられた意見はサービスに活かしておられます。

(家族との連携状況)

毎月、管理者及び担当者から利用者一人ひとりについて日常の様子や健康状態、連絡事項を報告されています。写真をふんだんに使ったホーム便りも季節毎に作成され、行事やイベントなどの様子を伝えておられます。面会時には金銭管理や介護計画に対する要望等も聞かれ、必要に応じ緊急時には電話による連絡や相談を行っておられます。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、職員は溝清掃や夜回り、懇親会等へ参加し、地元の人々と交流を深めており、ホームで開催する避難訓練や祭りには地域の人々が参加され利用者との交流を深めておられます。3ヶ月に一回のホーム便りの回覧や喫茶、外食、近隣施設利用等も行い、小・中・高等学校の職場体験の受入れや市民対象の介護の集いに参画する等地域とのかかわりを深めながら事業展開をしております。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域密着型サービスとしての理念を職員全員で考え「共に生きる、友に生きる」を主軸とし、地域の中で暮らし続けることを支えていくサービスとしている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事業所内に掲示し、スタッフミーティングやカンファレンス、朝夕の引継ぎ等でも随時確認を行いながら、理念の実践にむけて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、職員は溝清掃や夜回りや懇親会等へ参加し、地元の人々と交流を深めており、3ヶ月に一回、ホーム便りの回覧を行っている。利用者は散歩や買い物、ホーム祭りなどで地元の人々と交流を深めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義や目的を理解しており、評価を活かしてさらなる改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回、市担当課長、地域代表、家族、グループホーム職員等6名で開催しており、評価結果の報告や検討、サービスや行事の取り組み状況等について話し合い、寄せられた意見はサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>担当課に出向いたり、電話で相談したり、密接に連携しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月利用者個々に、管理者及び担当者から生活の様子や健康状態を、写真を添えて報告しており、3ヶ月に1回ホーム便りを発行し行事を分かりやすく伝えている。面会時には金銭管理状況の報告や介護計画に対する要望を聞いており、必要に応じ、緊急時の電話連絡も随時行っている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情や意見が言いやすいよう「お話聞かせて箱」という投函箱が設置してある。相談や苦情受付窓口、職員、第三者委員、外部機関を明示し、日頃から家族にも説明している。苦情処理の手続きも明確に定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の要望や状況の変化に応じ、必要な職員が確保できるよう話し合いにより、公休日の振り替えや併設デイサービスの非常勤職員の配置等、勤務の調整をしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	原則として異動は行なっていない。離職も最小限となるよう職員の親睦行事を推奨し、休みの希望にそえるよう配慮している。やむを得ない離職については重複勤務を行い、利用者が混乱をきたさないよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として外部研修に参加し、受講後はホーム内で伝達講習を行なっているが、研修参加者は限られている。内部研修についての計画はなく、段階に応じて職員を育成するための計画もない。	・内部研修の計画的な取り組み
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の介護サービス事業者連絡協議会や介護支援専門員連絡協議会に加入し、他事業者との交流や相互訪問、介護の集いなど公的な行事を参画し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>納得して利用出来るよう、家族同伴の見学や2泊3日の体験利用を行なうと共に、自宅訪問も行いながら顔馴染みの関係づくり、希望の聞き取りなどもしている。利用開始一ヶ月は家族とも細かく連絡をとり、安心して利用できるよう配慮している。</p>	
<p>体験</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>共に暮らしていく中で、本人の出来ることや得意な事、関心のある事などを見つけ、それを活かし伸ばしていくよう配慮しながら、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>共に暮らしながら、どのように暮らしたいのか何がしたいのか、個人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合には、言動や表情の変化等、日常生活での気づきをホーム日誌に書きとめ、思いや意向の把握に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月一回のケアカンファレンスでモニタリングや評価を行いながら、本人や家族の希望、職員や関係者の意見やアイデアを反映した介護計画を3ヶ月毎に作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画は3ヶ月毎に見直しをしているが、状況の変化に応じ、家族や職員、関係者とも話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族の状況に応じての受診支援や外食、喫茶、買物等、外出時の移送サービスを行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前から受診していた「かかりつけ医」をそのまま「かかりつけ医」としている利用者が多く、適切な医療が受けられるよう受診の支援している。夜間及び緊急時には往診を含め協力医院の支援体制も確立されている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重症化対応、終末ケア対応指針を定め、家族や本人に説明している。必要に応じ、早い段階から本人や家族、かかりつけ医と話し合い、重症化や終末期の方針を共有することになっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報についての取り決めがあり、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。記録や個人情報の取り扱いも配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや体調に配慮しながら、本人のその日の希望に応じた支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホーム内で調理し、利用者と共に準備や調理、盛り付け、配膳、片付けを行い、食事は利用者と職員と一緒にしない、食事時間を楽しんでいる。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に毎日入浴が出来る体制にあり、本人が嫌がるときは気分転換を図ったり、タイミングに合わせて声かけする等の工夫をしている。体調により足浴、シャワー浴、清拭等の対応をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	カラオケや喫茶、外食、園芸療法の体験、金魚ちょうちんつくりの参加など周辺店舗や公的機関を利用した楽しみ事を提供し、ホーム内においては、得意分野を活かし食事作りや洗濯物干し、洗濯物たたみを行い、折り紙やちぎり絵等の手作業を楽しんでいる。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	喫茶店や食堂、公園、フラワーランド、体験できる作業所等出かける場が確保されており、出かけることを楽しんでいる。ホーム周辺の菜園や前庭も広く、散歩等戸外で過ごす事も多い。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束にかかる指針を作成し、管理者、職員共に正しく理解しており、身体拘束は行なっていない。帰宅願望や不穏行動があった時はドライブ等で気分転換を図っている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかける事の弊害を管理者、職員共に理解しており、日中は居室、玄関共に鍵をかけていない。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成しており、ヒヤリはつとや事故を記録し、二度と同じような事故が起こらないよう再発防止策や対応策を話し合っ共有し、介護計画にも反映させている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員2名が消防署が行なう救急救命講習を受講し、事故対応マニュアルも作成されている。定期的な訓練やマニュアルの確認などの研修は行っていない。	・各種マニュアルの確認や共通理解と定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回避難訓練を実施し、夜間火災対応マニュアル、夜勤者緊急対応マニュアルを作成し災害に備えている。グループ会社のタクシー会社とは24時間の連携体制があり、地域住民の避難訓練への参加を契機として地域の協力支援体制も構築されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	医師や看護師からの情報は連絡ノートに記録し、薬の情報も添付の上確認している。服薬はその都度利用者一人ひとりに対して行なわれ、症状の変化や異常などの必要な情報は医師や薬剤師に提供している。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	運営者が元歯科医であり、口腔ケアについての指導や助言があり、食前の嚥下体操や食後の口腔ケア、義歯の清掃や消毒保管も適切に行なわれている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の資格を持った介護支援専門員が献立表作成に関わり、利用者一人ひとりに応じた食事形態や治療食にも対応している。食事量や必要に応じ水分摂取量を把握し健康管理に役立てている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症食中毒マニュアルを作成し、うがいや手洗いを実行している。担当課からの感染症予防情報を参考に発生予防に取り組み、インフルエンザの予防接種は職員、利用者共に実施している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	時季が感じられるようクリスマスツリーが飾っており、共用空間は明るく開放的である。ソファで利用者同士が会話をしたり、畳の間に寝転ぶ等自由な生活を楽しんでいる。壁には季節感を感じる壁飾りや利用者の作品が飾られ、季節の花等も活けてあり、生活感と共に季節が感じられ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具、筆筒、テレビ、仏壇など自宅で使用していた物の搬入や本人の作品が掲示してあり、居心地良く安心して過ごせるよう、工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	もみの木グループホーム
所在地	柳井市中央1丁目8番1号
電話番号	0820 - 24 - 0007
開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

介護される側、介護する側ではなく、入居者と介護スタッフがお互いに支えあって生きていくという理念の「共に生きる、友に生きる」を柱にして、アットホームで笑顔の絶えない生活空間を目指しサービスを提供しています。
また、市の中心に立地している環境を生かし、近所の観光名所や喫茶店などに、たびたび散歩がてら出かけています。

【実施ユニットの概要】 (10 月 31 日現在)

ユニットの名称	Aグループ		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
	要介護 1	2	要介護 4
	要介護 2	4	要介護 5
	要介護 3	2	要支援 2
年齢構成	平均 83.6 歳	最低 69 歳	最高 92 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者を中心に、ユニットリーダーや計画作成担当、介護職員で協議をして評価をおこなった。
評価確定日	平成 21 年 11 月 1 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		近所はお店がほとんどなので、立ち寄ってもらうなどは少ない。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		経営者は、事業所主催で祭りを行う事で、地域の高齢者の方に、刺激のある非日常を楽しんで頂きたいという思いがある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	実施する意義を理解し、評価を活かして改善に取り組んでいる。	前回の改善で、苦情第三者委員を設置した。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議の際に、外部評価の報告や改善事項を報告して、参加者の意見をサービスに活かすようにしている。	もっと、地域の方からの参加者を増やしていきたい。働きかけをしていきたいと思う。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	いろいろと電話で相談したり、直接市役所に行って助言を受けたりしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者や責任者は、外部研修を受けている。利用者に後見人をつけている方がいる。その関係もあり職員も制度について触れる機会はある。	職員も外部研修に参加して学べるような機会を設けるように、職員体制を整備していきたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフミーティングやカンファレンスで虐待についての話し合いをしている。 また、施設の虐待の防止についての指針を作成している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には、重要事項説明書を用い分かりやすく時間をかけて説明している。 また、不安点や疑問点についても話していただけるように努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に不満や苦情を言ってもらえるように心掛けている。 また、目安箱を設けて面と向かって言えない方にも対応している。外部者(第三者委員)の連絡先を掲示している。	家族へ第三者委員の設置と、その連絡先は文書で送付してある。 しかし、今まで第三者委員を通じての苦情は来ていない。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用料の請求に合わせ利用者の状況を書いた書類を送付している。 また、金銭管理は面会に来られた時に事務所で出納帳にサインを頂いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		開設してから、1回だけ要求があり情報開示をしている。これから、要求があれば速やかに対応したい。
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		窓口及び職員、第三者委員は重要事項説明書に明示し説明している。第三者委員の連絡先は壁に掲示してある。今まで、第三者委員を通じて、もしくは文書を通じての苦情の訴えはない。直接、電話や事務所への口頭によるものが多く、記録もしている。
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		毎月のスタッフミーティングや職員の給料を渡す時に時間を取って意見を聞く機会を設けている。また、事務職員を新たに1名採用し、積極的に職員の悩みを聞けるようにしている。10月に総務として採用した事務職員が、一人ひとり個別に面談を行ない、不安や不満、施設に対する要望などを聞いて運営者に報告している。それらの意見を反映するよう検討している。
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		利用者の要望(外出に行きたい等)に柔軟に対応できるように勤務の調整に努めている。行事がある時などは、出勤職員を増やして対応している。また、代休を取れるように調整して無理がないように努めている。
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		働きやすい環境を作るために、職員の希望休を月に2日取れるようにしている。異動については、適材適所の考えから行っている。職員の評価基準を、客観的に判断できるように取り組み中である。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		管理者や責任者は、たびたび外部研修を受けに行っているが、一般職員は各ユニットから1人が年に1回程度外部研修に行く程度である。もっと外部研修に参加できるように職員体制を整えていきたい。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		20代前半から70代近くの職員まで、幅広い年齢層である。
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		市の介護サービス事業者連絡協議会や介護支援専門員連絡協議会に加入し、他事業所との交流を持っている。会主催の研修会に、一般職員を参加させている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		10月に総務として採用した事務職員が、一人ひとり個別に面談を行ない、不安や不満、施設に対する要望などを聞いて運営者に報告している。それらの意見を反映するよう検討している。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		適正な評価ができるように、職能シートを作成する。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		職能評価シートの作成を検討している。その評価を元に、客観的に処遇に反映できるようにしたいと思っている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入居前までの担当ケアマネジャーからの情報が少なかったように思うので、しっかり情報を提供して頂けるように連携していきたいと思う。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入居前までの担当ケアマネジャーからの情報が少なかったように思うので、しっかり情報を提供して頂けるように連携していきたいと思う。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		入居前に体験入居をすすめて、実際に生活してみて自分に合っているかどうか、本人と家族の方に判断して入居を決めて頂いている。また、入居後1ヶ月は、特に頻りに家族と連絡を取り合うようにしている。事前に家族に了解を得るようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		認知力が低下してきている方の出来る事を見つけて生かすことが課題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		担当ケアマネジャーの方からの情報が少なかったように思うので、より詳しく頂けるように連携をしていきたいと思う。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		自宅の自治会の方が、敬老の日のお祝いを持ってきて頂いたり、お寺のお布施を徴収しに来たりしてもらっている。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		認知力が低下してきている方の思いを汲み取ることが段々難しくなっている。関わる職員全員からの情報を集め共有し、思いが汲み取れるようにしていきたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスで話し合いを職員で行っている。家族の意見は、面会時や電話等で意見を聞いて介護計画の作成に反映している。	本人の意見が、なかなか聞けない(認知力低下のため)ので、表情や言動・行動から思いを汲み取れるように、関わった全職員からの情報を集めて反映していきたいと思う。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の状態が変化した時など適切に見直している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を記入し、職員間の情報を共有しながら見直しに活かしている。日々の申し送りやカンファレンス・スタッフミーティングで話し合い見直している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族や本人の要望に対して柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの慰問や中学校の職場体験学習などの様々な分野で協力しあっている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	祭りを年2回開催して、施設を地域の人に開放して入居者との交流を行っている。また、ボランティアや見学・ヘルパーの実習の受け入れ等を行っている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の介護支援専門員やサービス事業者と話し合いを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターとの協働を模索していく。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		常勤看護師を配置し、日々の健康管理が行なえるように整備していきたい。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		自宅で使っていた物、居室の配置を今まで住んでいた所と同じにする等、住み替えによるダメージがないように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者の自尊心やプライバシーを損なわないように対応に注意している。</p> <p>また、個人情報についても取り扱いに注意している。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定ができるように支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>自室の掃除や調理の下ごしらえ、食器洗い等、一人ひとりのできることを大切に支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的には1日の流れはあるが、一人ひとりのペースや体調を配慮している。</p> <p>また、本人の希望に沿って支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の望む店に行けるようにしているが、ほぼ全員が、施設に来られる美容師さんを利用される。(料金が安いのか?)</p>	<p>職員体制に余裕を持たせ、行きたいと思う店に連れて行けるようにしたい。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>できる人は、食事の下ごしらえをしたり、食器を洗ったりしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>日常的に楽しめるようにしている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個別の排泄チェック表で排泄パターンを確認して支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		外食行事を頻繁に行っている。利用者の方も大変喜ばれている。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		今まで、一人の方(利用者の娘さん)が宿泊されたことがある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		管理者や責任者は、外部研修に参加し抑制や拘束のないケアに対する勉強をしているが、一般職員の研修が足りないように思う。研修に参加できるように、体制を整える。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		外部研修や内部研修、管理者及び責任者からの指導など行っていきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		火災以外の定期的な訓練を行うように検討したい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		ヒヤリはっと事故報告書を作成して改善策を講じている。また、事故が発生した場合は市に報告している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		グループ会社の三和タクシーが24時間営業しているので、何か災害があった時は協力して頂くようになっている。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の人にはあまり来訪されないが、家族の方はたびたび面会に来られる。(時間の制約もない)	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の分かる草花を活けたり、カレンダーなどを掲示している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	本人がしたいように、その人らしい生活が過ごせるようにしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご自宅で使用していたもの等を持ち込んで頂いて、その人らしい居心地の良い部屋になるようにしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節は入居者の状態に合わせてこまめに調節している。また、においや空気のおどみがないように換気している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	安全に自立した生活が送れるようにしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの力を活かして支援している。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭で花や野菜を収穫したり草引きしたりしている。また、夏の花火大会などの時は、ベランダに出て花火見物を行った。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	もみの木グループホーム
所在地	柳井市中央1丁目8番1号
電話番号	0820 - 24 - 0007
開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

介護される側、介護する側ではなく、入居者と介護スタッフがお互いに支えあって生きていくという理念の「共に生きる、友に生きる」を柱にして、アットホームで笑顔の絶えない生活空間を目指しサービスを提供しています。
また、市の中心に立地している環境を生かし、近所の観光名所や喫茶店などに、たびたび散歩がてら出かけています。

【実施ユニットの概要】 (10 月 31 日現在)

ユニットの名称	Bグループ			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	4	要支援 2	
年齢構成	平均 82.6 歳	最低 76 歳	最高 89 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者を中心に、ユニットリーダーや計画作成担当、介護職員で協議をして評価をおこなった。
評価確定日	平成 21 年 11 月 1 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		近所はお店がほとんどなので、立ち寄ってもらうなどは少ない。
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		経営者は、事業所主催で祭りを行う事で、地域の高齢者の方に、刺激のある非日常を楽しんで頂きたいという思いがある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	実施する意義を理解し、評価を活かして改善に取り組んでいる。	前回の改善で、苦情第三者委員を設置した。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議の際に、外部評価の報告や改善事項を報告して、参加者の意見をサービスに活かすようにしている。	もっと、地域の方からの参加者を増やしていきたい。働きかけをしていきたいと思う。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	いろいろと電話で相談したり、直接市役所に行って助言を受けたりしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者や責任者は、外部研修を受けている。利用者に後見人をつけている方がいる。その関係もあり職員も制度について触れる機会はある。	職員も外部研修に行き行って学べるような機会を設けるようにしたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフミーティングやカンファレンスで虐待についての話し合いをしている。 また、施設の虐待の防止についての指針を作成している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には、重要事項説明書を用い分かりやすく時間をかけて説明している。 また、不安点や疑問点についても話していただけるように努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に不満や苦情を言ってもらえるように心掛けている。 また、目安箱を設けて面と向かって言えない方にも対応している。外部者(第三者委員)の連絡先を掲示している。	家族へ第三者委員の設置と、その連絡先は文書で送付してある。 しかし、今まで第三者委員を通じての苦情は来ていない。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用料の請求に合わせ利用者の状況を書いた書類を送付している。 また、金銭管理は面会に来られた時に事務所で出納帳にサインを頂いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		これからも、要求があれば速やかに対応したい。
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		今まで、第三者委員を通じて、もしくは文書を通じての苦情の訴えはない。直接、電話や事務所への口頭によるものが多く、記録もしている。
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		10月に総務として採用した事務職員が、一人ひとり個別に面談を行ない、不安や不満、施設に対する要望などを聞いて運営者に報告している。それらの意見を反映するよう検討している。
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		行事がある時などは、出勤職員を増やして対応している。また、代休を取れるように調整して無理がないように努めている。
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		職員の評価基準を、客観的に判断できるように取り組み中である。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		もっと外部研修に参加できるように職員体制を整えていきたい。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		会主催の研修会に、一般職員を参加させている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		10月に総務として採用した事務職員が、一人ひとり個別に面談を行ない、不安や不満、施設に対する要望などを聞いて運営者に報告している。それらの意見を反映するよう検討している。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		適正な評価ができるように、職能シートを作成する。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		職能評価シートの作成を検討している。その評価を元に、客観的に処遇に反映できるようにしたいと思っている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入居前までの担当ケアマネジャーからの情報が少なかったように思うので、しっかり情報を提供して頂けるように連携していきたいと思う。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入居前までの担当ケアマネジャーからの情報が少なかったように思うので、しっかり情報を提供して頂けるように連携していきたいと思う。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		入居前に体験入居をすすめて、実際に生活してみて自分に合っているかどうか、本人と家族の方に判断して入居を決めて頂いている。また、入居後1ヶ月は、特に頻りに家族と連絡を取り合うようにしている。事前に家族に了解を得るようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		認知力が低下してきている方の出来る事を見つけ生かすことが課題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方にも、施設側から積極的に働きかけ、本人の支援に協力して頂けるようにしている。		
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居前から家族や居宅の担当ケアマネジャー等から情報を集め、本人と家族の関係がより良くなるように努めている。		担当ケアマネジャーの方からの情報が少なかったように思うので、より詳しく頂けるように連携をしていきたいと思う。
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の人や同級生の方、お寺との関係などを支援している。		自宅に帰って、近くに住む同級生に出会って昔を懐かしんだりしている。
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し努めている。 利用者が孤立しないように、関わり合いが持てるように支援している。		
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居された方の家族が、施設の祭りに毎回遊びに来られたりしている。		自宅に退居された方の様子を、時々見に行っている。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを表せない方に対しては、日々の生活の中で、本人の言動・表情の変化を観察して、本人の思いを汲み取るようにしている。		認知力が低下してきている方の思いを汲み取ることが段々難しくなっている。関わる職員全員からの情報を集め共有し、思いが汲み取れるようにしていきたい。
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後の面会時に家族から生活歴を聞いている。		
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録を元に、申し送りやケアカンファレンス、スタッフミーティングで話し合い把握するようにしている。		担当職員に月毎に状態等の評価を行ってもらい、それを元にカンファレンスや介護計画に活かすようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスで話し合いを職員で行っている。家族の意見は、面会時や電話等で意見を聞いて介護計画の作成に反映している。	本人の意見が、なかなか聞けない(認知力低下のため)ので、表情や言動・行動から思いを汲み取れるように、関わった全職員からの情報を集めて反映していきたいと思う。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3,4ヶ月毎に介護計画を見直し、状態に変化が生じた場合は、現状に即した新たな計画を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を記入し、職員間の情報を共有しながら見直しに活かしている。日々の申し送りやカンファレンス・スタッフミーティングで話し合い見直している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族や本人の要望に対して柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの慰問や中学校の職場体験学習などの様々な分野で協力しあっている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	祭りを年2回開催して、施設を地域の人に開放して入居者との交流を行っている。また、ボランティアや見学・ヘルパーの実習の受け入れ等を行っている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の介護支援専門員やサービス事業者と話し合いを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターとの協働を模索していく。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		常勤看護師を配置し、日々の健康管理が行なえるように整備していきたい。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		自宅で使っていた物、居室の配置を今まで住んでいた所と同じにする等、住み替えによるダメージがないように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者の自尊心やプライバシーを損なわないように対応に注意している。</p> <p>また、個人情報についても取り扱いに注意している。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定ができるように支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>自室の掃除や調理の下ごしらえ、食器洗い等、一人ひとりのできることを大切に支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的には1日の流れはあるが、一人ひとりのペースや体調を配慮している。</p> <p>また、本人の希望に沿って支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の望む店に行けるようにしているが、ほぼ全員が、施設に来られる美容師さんを利用される。(料金が安いいためか?)</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>できる人は、食事の下ごしらえをしたり、食器を洗ったりしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>日常的に楽しめるようにしている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個別の排泄チェック表で排泄パターンを確認して支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、希望により入浴できるようになっている。 ただ、時間帯は13時過ぎからになっている。(行事がある日等は午前に入る時もある)		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	安眠できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出・外食行事等の楽しみごとを企画提供している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる人は自分で所持している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	室内に閉じこもりがちにならないように、外出、外食行事・散歩等の企画・提供を行っている。		外食行事を頻繁に行っている。利用者の方も大変喜ばれている。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見や紅葉狩り、コンサートなどに出かける行事を行っている。家族は誕生会に招待したりしている。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	直筆の年賀状や暑中見舞いを書いて家族に送っている。また、電話は希望すればいつでもかけられる。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	夜間以外、いつでも気軽に訪問できるようにしている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	今まで、お一方のご家族が宿泊されたことがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		<p>管理者や責任者は、外部研修に参加し抑制や拘束のないケアに対する勉強をしているが、一般職員の研修が足りないように思う。研修に参加できるように、体制を整える。</p>
75 (28)	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		<p>外部研修や内部研修、管理者及び責任者からの指導など行っていきたい。</p>
76	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		<p>火災以外の定期的な訓練を行うように検討したい。</p>
80	<p>再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		グループ会社の三和タクシーが24時間営業しているので、何か災害があった時は協力して頂くようになっている。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の人にはあまり来訪されないが、家族の方はたびたび面会に来られる。(時間の制約もない)	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の分かる草花を活けたり、カレンダーなどを掲示している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	本人がしたいように、その人らしい生活が過ごせるようにしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご自宅で使用していたもの等を持ち込んで頂いて、その人らしい居心地の良い部屋になるようにしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節は入居者の状態に合わせてこまめに調節している。また、においや空気のおどみがないように換気している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	安全に自立した生活が送れるようにしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの力を活かして支援している。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭で花や野菜を収穫したり草引きしたりしている。また、夏の花火大会などの時は、ベランダに出て花火見物を行った。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない